

模擬デジタル通貨を用いた電力取引・店舗決済の実証実験

2022年3月9日
関西電力株式会社

当社は、「デジタル通貨フォーラム」※¹の電力取引分科会※²において、電力取引に用いたデジタル通貨DCJPY（仮称）※³を店舗決済にも適用する実証実験を、日本で初めて実施します。本実証実験は、デジタル通貨の将来的な実用化を見据え、電力P2P※⁴取引におけるデジタル通貨決済の実現性や、デジタル通貨の小売店舗での有用性を検証します。

当社は従来から、電力や環境価値のP2P取引ビジネスの開発を目指し、電力取引プラットフォーム※⁵の構築に取り組んでいます。電力取引分科会では、そのプラットフォームを活用し、デジタル通貨を活用した電力取引の支払決済や、再生可能エネルギーで発電された電力の利用証明を用いた新たなサービスの検討等に取り組んでいます。

本実証実験では、模擬デジタル通貨を活用した電力と環境価値の取引を行い、その取引で得たデジタル通貨を用いて、コンビニ店舗で模擬商品を購入できるかを検証します。決済には、本デジタル通貨専用のスマートフォンアプリを利用します。

当社は、引き続き、電力取引分科会の活動を通じ、電力や環境価値のP2P取引の実用化に向けて取り組んでまいります。また、その実用化に伴う環境価値取引の普及により、再生可能エネルギー電源の拡大と、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

以上

- ※1：株式会社ディーカレットDCPが事務局を務め、70社以上の企業・団体・関係省庁等が参加する日本におけるデジタル通貨の実用性を検討する取組み
- ※2：デジタル通貨フォーラムのうち、電力取引と支払決済の連携に関する研究を担当する分科会
- ※3：デジタル通貨フォーラムが仕様検討を進めているデジタル通貨DCJPY
- ※4：Peer to Peerの略称
個々の端末（Peer）が直接、互いにやり取りを行える仕組み
- ※5：電力の生産者や消費者同士が直接、電力取引を行うための仕組み
2018年から当社と日本ユニシスが共同で開発中

別紙： 模擬デジタル通貨を用いた電力取引・店舗決済の実証実験の概要

模擬デジタル通貨を用いた電力取引・店舗決済の実証実験の概要

- (1) 実施期間 : 2022年3月9日～14日
- (2) 実証実験内容 :
- ①電力取引プラットフォーム※¹とデジタル通貨プラットフォーム※²間のシステム連携を検証
 - ②電力取引で得た模擬デジタル通貨を用いて、店舗における模擬商品購入のアプリ上での決済を検証

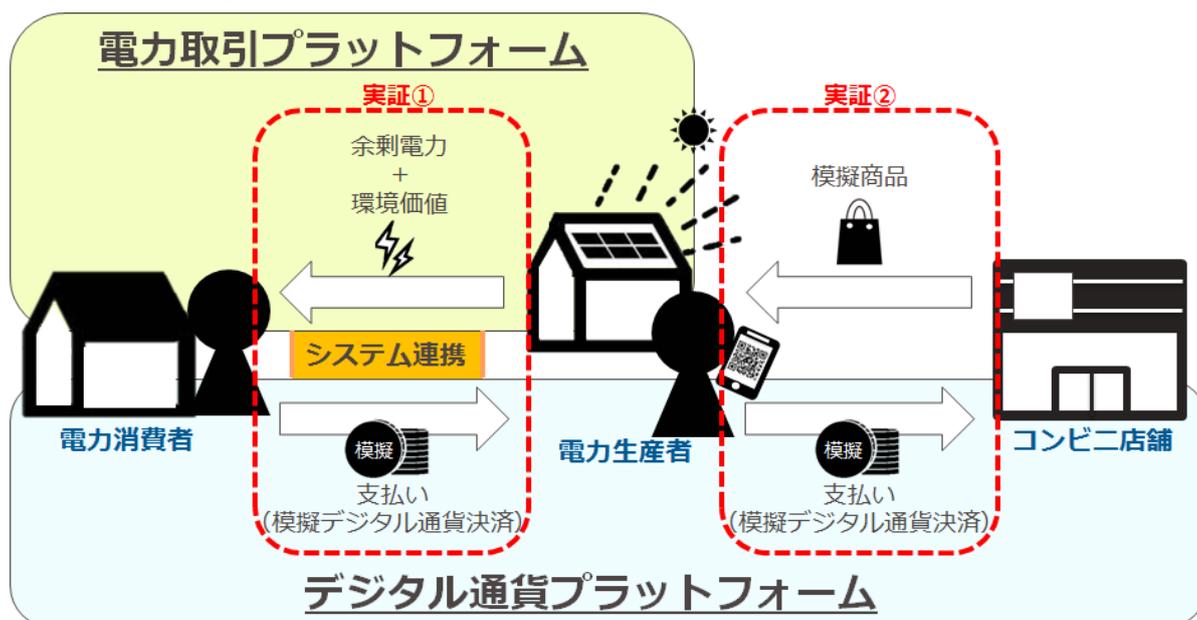
※1 : 電力の生産者や消費者同士が直接、電力取引を行うための仕組み

2018年から当社と日本ユニシスが共同で開発中

※2 : デジタル通貨を発行・送金・償却するための仕組み

ディーカレットDCPが開発中

【実験イメージ】



- (3) 今後の検討事項 :
- デジタル通貨の商業・サービス利用に関する新たなビジネスモデルの検討に加え、アプリの具体的な要件について検討